
神に捧げられし少女

鈴夜 音猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神に捧げられし少女

【Nコード】

N4790L

【作者名】

鈴夜 音猫

【あらすじ】

今回は若干のシリーズ。

死ぬことなど恐れない

暗くじめじめとした場所。

石造りの牢の中は、ひんやりと冷たい。

手の届かない所にある鉄格子がはめられた小さな窓からは、月明かりが差し込んでいた。

細い足首に重い鎖を付けられた少女は、膝を抱えたままピクリとも動かない。

「なあ、明日処刑される気分はどうだ？」

重い鉄格子越しに牢番の男が静かに尋ねる。

「死ぬのは恐いだろう？」

「……死ぬことなど、恐れない」

男に対して、というよりはまるで神への誓いのように、少女ははっきりと答えた。

「処刑されるのにか？」

男は少女の言葉に驚いて暗闇が支配する牢の中に目を凝らした。

冷たい牢の中で一人ただ膝を抱える少女は、男の視線に気付き顔を上げた。

「死は恐れるものではない。受け入れるものだから」

鈴の鳴るように静かな、しかしよく通る声が男の耳を打つ。

「私の魂は神のもの。それをお返しする時がきただけ。だから死な
ど恐れない」

迷いのない瞳。

男はその少女の小さな背に大きな翼を見たような気がした。

【End】

（後書き）

ここまで読んでいただきありがとうございます（*^^*）

今回の作品はモデルがあるのですが、皆様お気づきでしょうか？

皆さん一度は聞いたことのあるであろう「ジャンヌ・ダルク」です。
「処刑の前夜」というテーマで作者なりにイメージして書いてみました。

実際の夜は彼女にとって屈辱的なものだったのだと思いますが、私
の中では気高く、最後まで神を信じた人というイメージでした。

まあ信者ではないんですが。

少し暗い話でしたがいかがでしたでしょうか。

また次回、お会いできますよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4790/>

神に捧げられし少女

2010年10月18日21時27分発行